

1 圏域の概要

(1) 水産業の概要

①圏域内に位置する市町村及び漁業協同組合の概要

当圏域は石狩市及び小樽市が位置し、政令指定都市である札幌市に隣接していることから、非常に多くの観光客が入り込んでいる。

さらに、P B等の海洋性レクリエーションに訪れる人も多いため、水産物自体が観光の目玉の一つとして地域経済に大きく貢献しており、漁業生産地であると同時に水産物の一大消費地といった側面を有している。

漁業協同組合については、経営強化のため合併を既に行っており、石狩湾漁業協同組合、小樽市漁業協同組合及び小樽機船漁業協同組合が存続している。

②主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

当圏域では、底曳き網漁業、刺網漁業、定置網漁業及びホタテガイ養殖業等が営まれており、主要魚種はホッケ、カレイ、ホタテガイであり、この3魚種で当圏域全体水揚げの約5割を占めている。

近年はニシンの種苗放流や資源管理の実施により、水揚げの回復が見られる。

当圏域内におけるニシンの資源状況について、刺し網の目合規制等により若齢魚、小型魚の漁獲が抑えられ、産卵親魚が安定的に確保されているため、資源水準は、10年以上連続して高水準と評価されている。

③水産物の流通・加工の状況

当圏域内で水揚げされた漁獲物は、石狩市では1つの産地市場に、小樽市では2つの産地市場に集荷され、仲買業者を仲介して各地へ流通する一方、非常に多くの観光客の入り込みによって、地元においても鮮魚が消費されている。

また、ホタテガイについては、韓国へ輸出されている。

水産加工業が盛んで、蒲鉾については、贈答、土産、家庭、業務用として広く利用されており、小樽運河近くに立地する老舗メーカー工場直売店は、観光客の人気スポットとなっている。

④養殖業の状況

ほたてがい養殖は、当圏域において主要漁業種類の一つとなっており、その生産量・産出額は、2,827t、918百万円である。

養殖用種苗は、地先海域において天然採苗により確保し、籠による養殖が行われている。稚貝はオホーツク海等の地蒔き養殖用種苗として出荷している。

また、半成貝は道南地方へ加工向けとして、東北地方へは、かご養殖用種苗として出荷されるほか、一部は韓国へ生鮮出荷している。

⑤漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

圏域全体の漁業協同組合員は、206人だが、高齢化が進み、漁業者の減少が予想される。

⑥水産業の発展のための取組

ウニ、アワビ、ニシン、ヒラメの種苗放流を実施しているほか、環境保全のため、磯焼け対策の取組実施し、藻場や魚礁漁場の造成を計画している。

⑦水産基盤整備に関する課題

近年漁獲量の減少が見られることから、環境への負荷軽減や回復効果が求められており、また、流通・輸出拠点漁港における水産物の品質・衛生管理対策の推進が求められていることから、漁港整備を進めることにより、鮮度保持された安全・安心な水産物の安定供給の促進を取り進めるとともに、生産コストの縮減を図る必要がある。

なお、漁港整備年次が古く、岸壁及び護岸が老朽化している漁港が多く、放置した場合、漁労活動が制限され大幅な水揚げの減少を招くことから、コストの縮減と平準化を図りつつ、既存漁港施設の長寿命化対策を推進する必要がある。

⑧将来的な漁港機能の集約化

圏域内の漁港施設について、統合や廃止の予定はない。

養殖生産拠点地域地域の祝津地区にある祝津漁港について、ホタテガイの需要動向によっては、生産量に見合った漁港機能の強化や集約化を検討する必要がある。

(2) 圏域設定の考え方

①圏域タイプ	流通拠点型	設定理由： 水産物を集約する産地拠点港があり、消費地や加工場へ出荷している。
②圏域範囲	石狩市、小樽市	設定理由： 小樽港に集約される範囲及び出荷先を同じくする地域を基準として設定した。
③流通拠点漁港	小樽港	設定理由： 小樽港は13,504トン及び11.9億円の属地陸揚げがあり、産地市場も有していることから流通拠点とした。 なお、高度衛生管理や耐震岸壁の整備も将来的に検討しており、災害時の避難対策も確立されている。
④生産拠点漁港	1) 浜益漁港 2) 濃昼漁港	設定理由： 1) 浜益漁港は、地先に優れた漁場を擁し、

	3) 厚田漁港 4) 古潭漁港 5) 塩谷漁港 6) 忍路漁港	<p>漁船漁業や増養殖生産の圏域内の拠点として中核的な役割を担う漁港であるので、生産拠点漁港とした。</p> <p>2) 濃昼漁港は、地先に優れた漁場を擁し、漁船漁業の圏域内の拠点として中核的な役割を担う漁港であるので、生産拠点漁港とした。</p> <p>3) 厚田漁港は、地先に優れた漁場を擁し、漁船漁業や増養殖生産の圏域内の拠点として中核的な役割を担う漁港であるので、生産拠点漁港とした。</p> <p>4) 古潭漁港は、地先に優れた漁場を擁し、漁船漁業の圏域内の拠点として中核的な役割を担う漁港であるので、生産拠点漁港とした。</p> <p>5) 塩谷漁港は、地先に優れた漁場を有し、生産地として中核的な役割を担い、漁船漁業や増養殖生産の生産拠点を形成する漁港である。なお、防災・減災対策として、地域防災計画及び津波ハザードマップを作成している。</p> <p>6) 忍路漁港は、地先に優れた漁場を有し、生産地として中核的な役割を担い、漁船漁業や増養殖生産の生産拠点を形成する漁港である。なお、防災・減災対策として、地域防災計画及び津波ハザードマップを作成している。</p>
--	--	--

⑤輸出拠点漁港	祝津漁港	設定理由： 祝津漁港は、ホタテ養殖で2,096トンもの水揚げがあり、当該魚種を韓国へ輸出していることから、輸出拠点漁港とした。なお、今後も輸出を含め、安定的な生産の実現に向けて取り組んでいく。
---------	------	---

(令和元年)

圏域の属地陸揚量 (トン)	18,551
圏域の総漁港数	7
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	小樽港 石狩湾新港

圏域の登録漁船隻数 (隻)	406
圏域内での輸出取扱量 (トン)	286

⑥「養殖生産拠点地域」について

当圏域において、祝津地域はホタテガイを大規模に養殖しており、当該地域内の祝津漁港に陸揚げなど、ホタテガイの生産・流通に一体性を有する地域であるため、養殖生産拠点地域として設定した。

また、石狩地域においてもホタテガイを大規模に養殖しており、当該地域内の浜益漁港及び厚田漁港に陸揚げなど、ホタテガイの生産・流通に一体性を有する地域であるため、養殖生産拠点地域として設定した。

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	祝津地域	石狩地域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	ホタテガイ	ホタテガイ
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量（収穫量）(トン)	2, 145トン	682トン
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	680百万円	238百万円

2 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

・生産・流通の機能強化

当圏域内の漁港において、航路等の土砂堆積による漁業作業の非効率化や、波浪による港内静穏性が十分に保たれない等、漁船の損傷による経費がかかるため、防波堤の整備や港内、航路の浚渫事業を進める必要がある。

なお、当圏域における漁港の集出荷機能等の再編・集約については、小樽港に産地市場、隣接の札幌市に消費地市場が機能を果たしており、整備済みである。

また、漁船の大型化ニーズがないため、それに対応した漁港の整備は当面必要ない。

・輸出促進への対応

ホタテ増養殖事業の振興に努めており、今後も同事業を継続して実施する。

なお、韓国や中国でのホタテガイの需要の高まりが期待されることから、漁業協同組合主催の衛生管理研修会等を開催し、漁業者の衛生管理意識の啓発・普及に努めるとともに、必要に応じて衛生管理設備の設置を進める必要がある。

②養殖生産拠点の形成

・養殖生産拠点の形成

当圏域の祝津地域において、ホタテガイを対象魚種とした養殖生産拠点が形成されており、整備済みである。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

・海洋環境の変化への対応

当圏域は海水温の上昇等に伴う磯焼け等により、魚類の産卵、育成の場となる藻場が減少している。また、近年漁獲量の減少が見られることから、持続可能な漁業生産を確保するため、生息環境の整備により漁獲量の安定、増加が期待される魚種として、沿岸から沖合まで成長段階により移動するソイ類といった魚類の育成の場や、資源管理協定など資源管理の取組が行われているカレイ類、種苗放流されたヒラメ等の生息の場を造成するほか、磯焼けの一因であるウニの密度管理や整備水深を考慮して、ハタハタの産卵の場やソイ類等稚魚の育成の場となる藻場を整備する。

・藻場・干潟等の保全・創造

水産多面的機能発揮対策事業を活用して、ウニ密度管理事業を実施してきており、事業効果を検証する必要がある。

②災害リスクへの対応力強化

・漁業地域の安全・安心の確保

南海トラフ等の切迫した大規模地震・津波等の自然災害に対する漁港及び背後集落の安全確保のため、施設の機能診断を行いつつ、漁港施設の地震・津波対策の推進が必要である。

・被災後の地域水産業の早期再開

災害リスクに備えて、被災時の建設業や漁協と連携した事前の備え・初動体制の強化が必要である。また、BCPを策定する必要がある。

・持続可能なインフラ管理の推進

老朽化や機能の低下した漁港施設の機能回復を図るため、機能保全計画の見直しなどの対応が必要である。

・新技術の活用等による効率化・省力化

漁業者等との連携・協働を図る必要がある。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

・漁港の活用促進

当圏域は、大都市である札幌市に近いとため、プレジャーボート利用のニーズが多く、漁港の活用が進んでいる。また、釣り客も比較的多い。

プレジャーボートの利用ルールの徹底により漁業者との共存を図る。

また、安全に関する啓蒙・啓発が必要である。

- ・地域活性化の取組との連携
 新型コロナウイルス感染症防止のため、近年、中止となっているが、地域の水産物を柱としたイベント「小樽しゃこ祭」や「小樽ニシン群来祭」が開催されており、地域活性化策の一つとなっている。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・就労環境の改善
 高齢化する漁業者や女性の就労環境の改善は、担い手確保にあたり重要であるため、屋根施設整備が必要である。

3 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
石狩湾周辺	環境変化 資源管理 藻場・干潟	水産環境整備事業
小樽市	藻場・干潟	水産多面的機能発揮対策事業

藻場が減少している沿岸域に、ハタハタの産卵場やソイ類等の幼稚魚の育成場となる藻場（産卵藻場や単体礁）を整備する。

また、沖合に魚礁を整備することにより、沿岸から沖合へ移動するソイ類、アイナメといった魚類未成魚の育成の場づくりを行うほか、それら魚類の成魚やミズダコ、タラ、ホッケの生息の場づくりを行い、これら沿岸から沖合までの一体的な整備により、水産資源の回復・増大を図り、海域の生産力を向上させる。

②災害リスクへの対応強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

現在、具体的な施策は計画されていないが、漁港機能の集約・分担の可能性の模索や漁港の「海業」への活用等、既存ストックの有効活用について、関係者と検討する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
祝津	就労環境	地域水産物供給基盤整備事業	祝津漁港	1	—

4 環境への配慮事項

沿岸域に藻場施設を整備することで、これら藻場による、水質の浄化効果が見込める。また、魚礁漁場と周辺の天然漁場を含め沿岸の藻場から沖合の魚礁・産卵礁施設まで魚類等の一体的な生活環境が創造され、幼稚魚や未成魚の保護・育成効果が期待できる。

5 水産物流通圏域図

別紙のとおり。

